

平成28年11月30日
一般社団法人日本自動認識システム協会
研究開発センター 酒井

第3回 生体認証を用いた被災者支援システムの研究開発検討委員会 議事録(案)

1. 日時：平成28年11月18日(金) 10:00~12:00
2. 場所：一般社団法人 日本自動認識システム協会 (J A I S A) B会議室
3. 次第：
- | | |
|----------------------------|-------|
| 1. 開会の挨拶 | 事務局 |
| 2. 配布資料の確認 | 事務局 |
| 3. 議事 | 半谷委員長 |
| 1) 委員長挨拶 | 事務局 |
| 2) 議事録確認 | 事務局 |
| 3) 連携シーケンスと API 仕様検討状況報告 | 事務局 |
| 4) プログラム開発(連携および生体認証側)状況報告 | 齋藤委員 |
| 5) プログラム開発(被災者支援システム側)状況報告 | 吉田委員 |
| 6) 検証実験およびプレス発表について | 事務局 |
| 7) その他 | |
| 4. 事務連絡 | 事務局 |

4. 出席者：(敬称略)

[委員]

- | | |
|---------|-------------------|
| ○ 半谷精一郎 | 東京理科大学 |
| × 寶木和夫 | 国立研究開発法人産業技術総合研究所 |
| ○ 吉田稔 | 西宮市情報センター |
| ○ 南晴久 | 西宮市情報センター |
| ○ 森岡毅 | 川口市 |
| ○ 宮崎昌美 | 狭山市 |
| ○ 村上秀一 | 株式会社日立製作所 |
| ○ 齋藤雄一郎 | 富士通株式会社 |
| ○ 塙俊浩 | 日本電気株式会社 |
| ○ 齋藤訓 | 株式会社日立システムズ |
| ○ 上田隆 | 株式会社システム・エージ |
| ○ 平岡良彦 | セコム株式会社 |
| × 鷺宏行 | 日本電子計算株式会社 |
| ○ 平野誠治 | 凸版印刷(株) |

[オブザーバ]

- | | | | | | |
|---|------|----------------------|---|------|----------|
| × | 高田直幸 | セコム株式会社 | ○ | 山田徳幸 | 日本電気株式会社 |
| × | 野口武彦 | 株式会社NTT データ・エム・シー・エス | | | |
| × | 加藤誠司 | 経済産業省 | ○ | 中山和泉 | 経済産業省 |

[事務局]

- 酒井康夫 (一社)日本自動認識システム協会

5. 配布資料

- 資料1: 第3回生体認証を用いた被災者支援システムの研究開発検討委員会アジェンダ
資料2: 第2回生体認証を用いた被災者支援システムの研究開発検討委員会 議事録
資料3-1: 連携シーケンスとAPI仕様検討状況報告
資料3-2: 生体認証応用被災者支援システム操作遷移(あるべき姿)
資料4: (欠番)
資料5: (欠番)
資料6-1: 検証実験案
資料6-2: 検証実験プログラム案
資料6-3: 会場レイアウト案
資料7: プレス発表案

6. 議事内容

半谷委員長より、開会に際してのご挨拶をいただいた後、議事に入った。

1) 議事録確認

事務局より、資料2を用いて、前回議事録の確認があり、口語表現か所を文語体に替えることと、2ページ以降のヘッダーの年号の誤っていることが指摘され、それを修正することで承認された。(詳細は資料2参照)

2) 連携シーケンスとAPI仕様検討状況報告

事務局より、第2回委員会以降に、被災者支援システム側および生体認証側の関係者により構成されているワーキンググループ(WG)で、第2回委員会での指摘事項を含めて、「連携シーケンスとAPI仕様」のあるべき姿論として検討した「生体認証応用被災者支援システム操作遷移(あるべき姿)」の結果について、資料3シリーズを用いて報告があった。審議事項と結果ならびに検討事は下記。(詳細は資料3シリーズ参照)

[審議事項と結果]

- ①提示された「生体認証応用被災者支援システム操作遷移(あるべき姿)」は、資料を理解しやすくするため下記の修正をすることで承認された。

[修正内容]

- ・検索時の「補助検索項目入力画面」の表示内容等、システムのインプリメント時に連携機能側で実現する機能については、イタリック体にすること。

②ランクの色分けについて審議し、ユーザーサイドの希望に従うこととなり、現場の担当者に情報を与えることが大切なため、ランクの色分けは優先順位で色分けするのではなく、生体認証側での評価ランクに従って表示することとなった。例えば、第一位であっても、ランクが低い場合は、低いランクのもので表示する。

なお、ランク分けの基準等は、インプリメント時に自治体関係者と生体認証機能提供者間の調整により決定する事項として扱うこととなった。

③補助検索項目として、性別と生年のうち何を使うかあるいは何も使わないかは、被災者支援システム側（ユーザーサイド）の希望に従う事項であり、インプリメント時に自治体関係者と生体認証機能提供者間の調整により決定する事項であることが再確認された。

④1対1認証の必要性について審議し、被災者支援システム側（ユーザーサイド）の意見として、現場の担当者が結果を見て、再確認が必要と判断する場合があるので、機能として残すことが再確認された。

ただし、再確認時には部位変えたり使用する生体認証技術を変えることなども考えられ、具体的な手法や提供機能はインプリメント時に自治体関係者と生体認証機能提供者間の調整により決定する事項であることが再確認された。

また、生体認証技術は100%の確実性を保証するものではなく、統計的手法をもとにして同じ人であるという事を提示する技術ということについても再確認された。

ただし、導入を考えると、生体認証機能提供者は被災者支援システム側の自治体関係者に自信をもって大丈夫ですと言ってもらうことが必要であり、そのためには精度を上げてもらうことが必要であると被災者支援システム側（ユーザーサイド）から指摘があった。

⑤登録および削除時のログの残し方について意見交換し、振り返りや修正時の備えログに理由を残すことなども有効ではないかとの意見があった。この実現には、被災者支援システムを導入する自治体の自治体システムの仕様の変更などが必要となるので、インプリメント時に自治体関係者に検討していただき決定する事項であることが確認された。

⑥削除時の生体情報の削除を論理削除するのが、物理的に削除するののかについて意見交換した。登録時には登録者のもとにお伺いして登録していただくなどのオペレーションを考えると、誤削除や削除後の再転入による再登録などに備えるためには、論理削除としておいた方が良いのではないかとの意見もあった。また、個人識別符号という観点からは、物理削除が適当であろうとの意見もあった。

どのような削除方式をとるかは、ユーザーサイドの自治体システムでの考え方により実現できるので、自治体関係者がインプリメント時に取り扱いを検討していただき決定する事項であることが確認された。

⑦API仕様書や連携シーケンス仕様等は、プログラム開発の中で修正等があるので、齋藤訓委員が、開発状況により、順次修正し委員に展開することとなった。

3) プログラム開発（連携および生体認証側）状況報告

齋藤訓委員より、連携および生体認証側のプログラム開発状況について口頭で報告があり、内容が確認された。

[主な報告事項]

- ①被災者支援システムと連携機能の連携実現のため、被災者システム側のWebシステムと、連携機能のWebシステムとの、双方から一つのウィンドウを制御することができるかという検証をした。その結果、ホームデータポストメソッドアクセスで実現できることが確認できた。今後、この方法に必要な各パーツを開発してゆく予定である。

4) プログラム開発（被災者支援システム側）状況報告

吉田委員より、被災者支援システム側のプログラム開発状況について口頭で報告があり、内容が確認された。

[主な報告事項]

- ①被災者支援システムの動作画面のWeb上で表示され、連携機能側の表示灯はダミーであったが「生体認証応用被災者支援システム操作遷移(あるべき姿)」に従って被災者支援システム側が画面遷移することが示された。

5) 検証実験およびプレス発表について

事務局より、資料6シリーズを用いて報告があった。審議事項と結果ならびに検討事は下記。(詳細は資料6シリーズ参照)

[審議事項と結果]

- ①プレスに対するコンタクト時期について検討し、1月上旬に事前アナウンスし、2月上旬に本発表という、二回実施することとなった。
また、プレス発表の内容は、経済面に載せるのか、地方面に載せるのかで内容が変わるが、自治体関係者に広く知ってもらうには地方面が良いので、今回の発表は、市民にとってこの仕組みはどんな意味を持ち、どんな安心に繋がるのかとの視点で発表する方が良いとのこととなり、その内容とすることで検討することとなった。
- ②当日の内容について検討し、技術開発の発表展示ではなく、被災者支援システムに関心のある方向けのユーザ目線からの展示発表を行い、関係者が体験することができるようにすることが良いのではないかと意見があり、いただいた意見を参考にして、どのような内容の展示発表にするか継続検討することとなった。
なお、発表の内容やプレス発表の内容等について、狭山市の宮崎様がサポートしていただけることとなった。
- ③展示発表をいずれの形にするせよ、プレス関係者の向けの説明会を展示発表の前に設けることとなり、当日の時間割は下記。
 - ・プレス関係者の向けの説明会 午後1時から30分程度
 - ・展示発表会 午後2時から1から2時間程度これに合わせて展示説明内容等を検討することとなった。
- ④展示発表会の日程について意見交換し、展示発表する内容が日持ちがする内容と思われるので、当初提案通り、2月17日(金)とすることとなった。

⑤プレス発表の形態について検討し、発表者は、JAISAと検討委員会名とし、関係各社の希望者のエンドースをいただくこととなった。

また、西宮市情報センターは後援とすることは可能とのことで、どう扱うかは継続調整することとなった。

なお、問い合わせ先は、JAISAとし、そこから関係者を紹介することとなった。

⑥展示発表会に対する各生体認証ベンダーの参加希望状況は下記。

- ・生体認証技術展示： 日立製作所、富士通、NEC殿が参加表明
- ・被災者支援システムとの連携展示： 日立システムズ殿は展示する
富士通殿はなし
NEC殿は継続検討

継続検討されているNEC殿からは12月中旬にご回答をいただくこととなった。

⑦展示発表会の参加に対する案内等は、今後JAISAより発行することとなった。

7) 次回以降の予定等

第4回 平成29年3月10日(金) 14時から

以上